

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)朝霞市西弁財1丁目計画 新築工事	階数	地上7F	
建設地	埼玉県朝霞市西弁財一丁目21番1、25	構造	RC造	
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	230 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年9月30日	
敷地面積	1,995 m ²	作成者	Splus株式会社	
建築面積	1,332 m ²	確認日	2024年9月30日	
延床面積	4,740 m ²	確認者	Splus株式会社	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.5 ★★★★★★ S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★	標準計算 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.5 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.4	LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2	Q のスコア= 3.1 LR のスコア= 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当とし、省エネルギーに配慮している。高屋光率、F☆☆☆☆☆建材の全面的採用等、室内環境の向上に努めている。高度情報通信設備に対応し、建物のサービス性能にも配慮している。また、適切な緑地づくりにより、良好な緑地環境にも配慮している。	その他	
Q1 室内環境 屋光率を高めに設定した上で、ブラインドや庇を採用するなど光・視環境にも配慮している。また、F☆☆☆☆☆建材を全面的に採用し、空気質環境の向上に努めている。	Q2 サービス性能 各住戸にGbit/sの「ロードバンド」が利用可能な環境を整備し、高度情報通信設備に対応している。躯体材料の耐用年数および主要内装仕上げ材の更新必要間隔に配慮し、建物の耐用性・信頼性の向上に努めた。EV充電設備を設置している。	Q3 室外環境(敷地内) 緑化に関しては、外来種への適切な対応を行い、自生種を保全している。植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。
LR1 エネルギー 建物の熱負荷に配慮し、日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当とした。LED照明、二重サッシを採用してエネルギー削減に努めた。	LR2 資源・マテリアル 資源・マテリアルに配慮し、非再生性資源の使用量削減に努めた。躯体断熱材、外構資材、タイルにリサイクル材を使用している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO₂排出率を参照値より抑制して地球温暖化へ配慮している。適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性向上に努めている。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)朝霞市西弁財1丁目計画 新築工事

 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境			0.40	-	-	3.5
1 音環境		2.0	0.15	3.0	1.00	2.8
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		1.0	0.50	3.1	0.50	
1 開口部遮音性能	住居部:開口部遮音性能)T-2	1.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	2.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		1.6	0.35	4.0	1.00	3.5
2.1 室温制御		2.2	0.50	4.0	1.00	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である	1.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.0	0.25	4.0	1.00	3.8
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率	2.5%≦[共用部昼光率]、2.0%≦[住居昼光率]	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御	住居部:カーテンと庇の2種類を組み合わせるグレアを制御	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	建築基準法規制対象外となる建築材料をほぼ全面的に採用している	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.3
1 機能性		3.0	0.40	3.8	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	各住戸にGbitクラスの「ブロードバンド」が利用可能な環境が整備されている	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	住宅の品質確保の促進に関する法律において等級3相当	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用している	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		2.6	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり		-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	2.9m以上～3.0m未満	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		2.6	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.74	5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			2.2	0.20	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	3.2
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材(躯体)、外構資材(外構)、タイル(床)	5.0	0.20	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	4.0	0.33	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	
2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの量の推計や、置場の設置、有価物の回収を計画	4.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	
2	振動		-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの項目の過半を満たし、広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

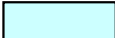
建物名称	(仮称)朝霞市西弁財1丁目計画	BEE	1.5	BEEランク	★★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア					
4.0	+	2.0	=	6.0	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満		良い 6.0以上		非常によい 6.8以上	
				すばらしい 8.0以上	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減			スコア平均	4.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>				
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.0	
ライフサイクルCO2排出率を参照値より抑制して地球温暖化へ配慮している。 適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性向上に努めている。				
(2) 緑の保全・創出			スコア平均	2.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>				
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0	
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0	
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0	
緑化に関しては、外来種への適切な対応を行い、自生種を保全している。植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。建物周囲に視線の行き届かない袋小路や死角をつくらないようにして防犯性に配慮している。 近くの気象台データを利用して、風環境を把握している。				

 : 入力欄